

平成30年度 第3学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	現在の授業についての 分析・検証結果	授業改善に向けての具体的な方策	補充・発展的指導の計画	成果○ 課題●
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストの読解分野の正答率は、学年平均で約85%となっているが、5%の児童の読む力に課題がある。 ワークテストの漢字・言語の正答率は、学年平均で約85%となっているが、個人差が見られる。特に、文字の書き方、語彙の量に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を推進し、文章を読むことに慣れさせる。 定期的な漢字テストで習熟度を把握し、練習を繰り返し行わせる。また、文章中でも正しく使えるようにするため、作文等では、見直しの習慣を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい字形で、マス目の中に納めて書くよう指導する。 分からない語句等は辞書を使用して語彙を増やす。 シリーズ物などを紹介して、更に読書の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書する姿が多くみられるようになり、それに伴って語彙も増えた。 ○漢字ワークテストを繰り返し行ったところ平均点が90点以上になったクラスがあった。繰り返し練習させたことにより習熟度が上がっている。 ●漢字の習熟度には個人差が大きく、繰り返し・見ながら・正しく書く等の指導の工夫が必要と思われる。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストの結果から、思考・判断・表現及び技能の観点では、正答率が8割を超えている。 一方、知識・理解の観点は正答率が8割に達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科見学の機会を生かし、授業内に立てた予想と、見学を通して分かったことを関連付けて考える。 その上で予想に対し、事実・考察・まとめといった基礎的な学習の仕方を指導し、社会における人のつながりについての考え方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りで、人のつながりを考え、まとめさせる。 ・自分が理解したことを新聞などに、まとめ表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科見学で、施設の人から直接話を聞き、人とのつながりや工夫されていることを理解し、新聞にまとめることができた。 ●資料が何を示しているのかを読み取る問題の正答率が低い傾向にあった。資料から分かることについて、今後も継続して指導する。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> 4月実施のベーシック診断シート正答率80%以上の児童64%、平均正答率78.9% 7月実施ベーシック診断シート正答率80%以上の児童78%、平均正答率87.8% 1学期のワークテスト思考力を見る問題70点以上の児童91%。技能、知識理解の観点では全員70点以上。 よく話を聞いて意欲をもって学習に臨む児童が多い。中間層の児童は真面目ではあるが計算の丁寧さなどの点で課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆算に課題のある児童は丁寧に書く、大きく書くなどの基本的な内容を指導する。筆算スペースを十分にとって位取りを再確認させながら順序立てて行う。 ・吹き出しなどを使って考え方のポイント、便利な方法などをまとめさせる。 ・3年生前半で、学習の規律、ノートの使い方、筆記用具などについて習慣付けを図る。 ・意欲をもたせるために、学習内容が生活のどのような場面で使われているかなどを意識させ、疑問や驚きをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の学習内容に課題のある児童に関しては、随時計算練習などを入れて復習をさせる。(特にかけ算九九) ・自力解決を目指すために、課題提示時に見通しをもたせる。ヒントなどの提示をすることで意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年生の学習内容の復習を合わせて行うことにより、3年生の学習内容の理解が進んだ。(くじらコース) ○意欲をもって課題に臨む子が多い。間違い直しは98%の児童がきちんとできる。図を使って説明をする子が増えた。 ●学習規律の定着、80%。特に姿勢について指導しているが不十分である。ノート、作図セットなど忘れる、鉛筆がきちんと削れていない児童が数名いる。 ●ノートの使い方については個人差が大きい。段階を経た指導の見直しが必要である。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストの、知識・理解の観点では、学年平均が約90%に達しているが、思考・表現の観点では、85%ほどである。植物の観察記録や、実験の行い方などの技能面でも、習熟度の個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期以降は実験が増えるため、実験の行い方を電子黒板を使用して分かりやすく説明する。その上で仮説・予想・結果・考察などの実験の進め方を指導し、引き続き科学的な見方や考え方を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花や葉の形、昆虫の体の節など具体的に伝え、正しく観察記録させる。 ・実験や観察等で得た複数の知識や実感を、比較・関連付けることを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「根・くき・葉」「あたま・むね・はら」「回路」「S極・N極」等の用語の習得率は、高い。他の理科の知識も豊富で興味をもっている。 ●本などで得た知識は多いが、生活体験に立脚した観察眼などは弱い。できる限り実際に観察したり実験したりして、理科的な見方を身に付けさせる必要がある。

平成30年度 第3学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正しい音で歌うことに課題がある児童が5%いる。 リコーダーの既習の3音は、全員演奏することができる。 音楽を聴いて聴き取ったことを言葉で表すことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> よびかけとこたえで挨拶をする活動を常時活動として設定することで、正しい音の高さで歌うことができるようにする。 互いの音を評価し合うことで美しい音色の追究をすることができるようになるよう、一人一人が「ベスト音色賞」を選ぶ活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の困り感やつまずきについて、聞き取りをしながら個別の習熟を図る。 音楽表現の質が高まるような声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○呼びかけとこたえのあいさつによる常時活動をするので、全員の児童が正しい音の高さで歌うことができるようになった。 ○互いの表現を評価し合う活動を設定することで、自分の歌声や音をよく聴き、改善しようとする姿が見られた。 ●読譜することに課題がある児童に対して、個別に指導をしていく必要がある。
<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料の特徴やそれによって生まれる表現効果に関心を持ち、材料と積極的に関わりながら作品づくりに取り組むことができる。 自分の表現したいことを思い付くことはできるが、アイデアをより深めたり、その表し方を追究したりすることが難しい児童が5%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品づくりの過程で、途中鑑賞の活動を積極的に取り入れることで、友達の作品や活動から、自分では思い付くことができなかつたアイデアや表し方のヒントを得ることができるようにする。また、ねらいを達成している児童の作品を全体に紹介し、解説することによって、考え方や表し方を共有させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 液体粘土など、新しい材料を積極的に取り入れながら、活動に関心をもたせるとともに、多様な表現技法を経験することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○液体粘土やクリーム粘土など、質感に特徴のある材料を授業に取り入れたことによって、材料の特徴のよさを味わいながら、意欲的に活動することができた。 ○作品づくりの途中で相互鑑賞の時間の設定することによって、友達の作品や活動から見付けたよさをもとに、自分の表現したいことを深めたり追究したりすることができるようになった。 ●手先の細かい操作に課題がある児童に対して、個別に支援していく必要がある。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体育への関心が高く、走・跳の運動やゲームの領域では、楽しく意欲的に取り組んでいる。 体力テストの結果から、個人差はあるが、筋持久力と柔軟性が低い傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 筋持久力と柔軟性を向上させるような体づくり運動を重点的に取り組む。 器械運動等、自分のめあてを達成するための学習の仕方を行うことで、運動への意欲を高め、継続的に運動に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 器械運動では、補助具や着地、着手点の目印を使うなどの場の工夫を行う。 成果を振り返ることができるように、ワークシートを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○走る・跳ぶの運動では、動かす部分を強調した走の練習を行い、以前より上半身を使って走るようになり、指導した成果は上がっている。 ○マット運動等では、伸縮部分を意識した準備運動と、一つずつポイントを押さえた練習に取り組ませたため、形の整った前転ができるようになってきた。 ●柔軟性の向上については、器械運動実施時期だけではなく、定期的に取り組めるよう、年間指導計画を工夫する必要がある。